

統合 EDI の ACMS シリーズが、 会計・経理業務を効率化する「全銀 EDI システム（ZEDI）」に対応 ～金融 EDI と商流 EDI の統合管理で、運用効率の向上とコスト削減～

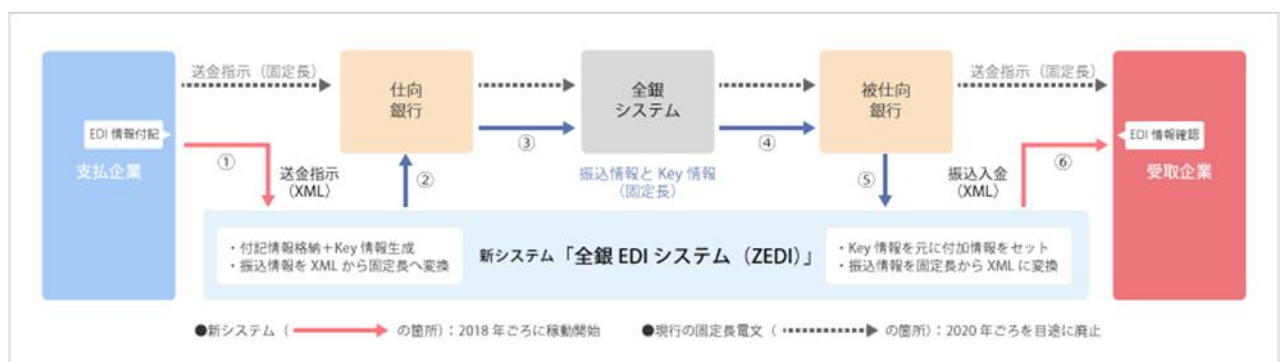
株式会社データ・アプリケーション（本社：東京都中央区、代表取締役社長：武田 好修、略称：DAL、JASDAQ：3848）は、統合 EDI 製品「ACMS シリーズ」を 2018 年 12 月稼働予定の「全銀 EDI システム（以下、ZEDI）」に対応することを表明します。

ZEDI は、日本の企業間送金にかかわる総合振込などの電文を XML 電文に移行し、金融 EDI の高度化に向けた取り組みを進めて行くためのプラットフォームで、支払企業、仕向銀行、被仕向銀行、受取企業の間での送金と商流情報（EDI 情報）を中継するシステムの役割を果たします。具体的には、XML 電文に移行されることで支払企業が総合振込に商流情報を付加して送信することが可能となり、受取企業がその商流情報をもとに売掛金の消込作業の効率化が可能となります。

2014 年に大手小売や卸が参加した共同実証※では、この仕組みにより受取企業では売掛金の消込業務を自動化・効率化でき業務の削減効果が得られる上に、支払企業でも受取企業からの入金確認業務を軽減できることが確認されました。

「ACMS シリーズ」は、ZEDI 対応に必要な XML 電文の作成・変換機能と通信プロトコル JX 手順、企業認証用のクライアント証明書取得・更新機能を提供し各企業での ZEDI 対応を容易にします。また、ワンパッケージで金融 EDI と商流 EDI を統合管理できることから、EDI 業務の一層の効率化、運用コストの削減をはかります。

図 1：金融・IT ネットワークシステム（全銀 EDI システム）の概要



※出典：流通 BMS による決済情報と商流情報の連携の検討について

【2014 共同実証】実証内容、結果、今後の課題 一般財団法人流通システム開発センター2014 年 12 月

■ZEDI の背景

2015 年 12 月、金融庁・金融審議会より、企業間の国内送金指図で使用する電文方式について、現行の「固定長電文」を廃止し、情報量や情報の互換性等に優れた「XML 電文」に移行することが提言されました。それを受け、金融界、産業界、システム関連事業者、金融庁等をメンバーとし、一般社団法人全国銀行協会を中心とした「XML 電文への移行に関する検討会」において検討、現在稼働している「全国銀行データ通信システム（全銀システム）」とは別に「全銀 EDI システム（ZEDI）」を新しいプラットフォームとして構築することが決定しました。これにより、支払企業側については、受取企業側からの入金紹介に関する問い合わせ対応の工数削減、そして、受取企業側の売掛金の消込作業を効率化するなど、企業のバックオフィス業務の効率化、生産性の向上を目指しています。

■ZEDI を利用するには

ZEDI を利用するために、支払企業は総合振込を XML 電文で作成すること、受取企業は XML 電文の振込入金通知や入出金取引明細を既存のシステムに取り込みやすい形式に変換することが必要です。ただ、単純に XML 電文に変換すればよいわけではなく、金融機関との接続を前提としたメッセージ処理に対応しなければなりません。

ZEDI 対応の ACMS シリーズを利用することで、企業は既存の資産や仕組みの変更を最小限にとどめ、迅速に ZEDI を活用することができます。（図 2）

■主な ACMS シリーズでの ZEDI 対応ポイント

（１）XML 電文伝送仕様である JX 手順の提供

支払企業や受取企業での ZEDI との XML 電文伝送仕様であるインターネット EDI 用通信プロトコル JX 手順を提供します。

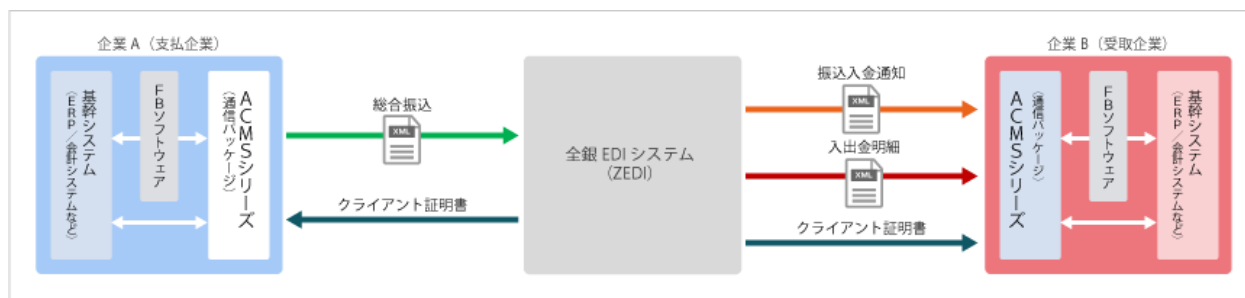
（２）XML 電文を作成・変換機能を提供

「ACMS シリーズ」は、支払企業や受取企業での XML 電文の作成・変換機能を提供します。固定長や CSV など、さまざまな形式から XML 電文を作成・変換でき、その逆にも対応可能です。また、スキーマによる妥当性検証も可能で XML 電文の正確性を保証し、更には ZEDI 対応で必要となる金融機関との接続情報なども容易に付記でき、XML 電文の作成・変換を容易に実現できます。

（３）クライアント証明書の取得・更新機能の提供

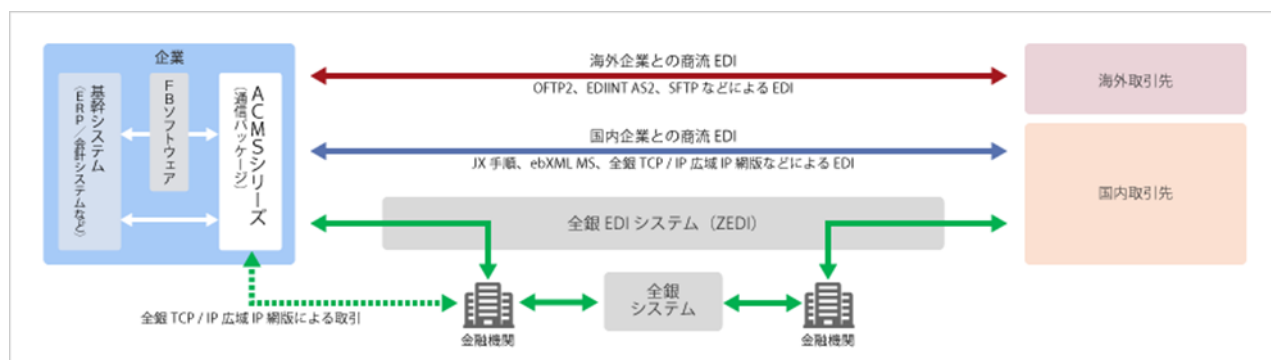
ZEDI ではセキュアなシステム運用のため接続時にはクライアント証明書の交換が必要です。これは ZEDI 利用企業を認証するためのもので、ZEDI 仕様に従って初期取得と定期的（約 2 年毎）更新が必要になります。「ACMS シリーズ」はその取得や更新管理を一手に引き受けるため、取得のための仕様を意識することなく業務に専念できます。

図 2: ZEDI 利用における「ACMS シリーズ」活用イメージ



また、「ACMS シリーズ」は、標準 EDI や Web-EDI などマルチプロトコルを特長とすることから、商流 EDI と金融 EDI を統合運用が可能です。（図 3）国内外の企業との取引にも活用することで、EDI の形態毎のシステム化による煩雑な運用を排除し、コストを削減します。さらに、大企業・サービス事業者向けにサーバ製品、中小企業としてクライアント製品を提供するなど、豊富な製品ラインナップを用意しています。

図 3：商流 EDI と金融 EDI を統合管理可能な「ACMS シリーズ」



DAL は、ZEDI のサービス開始に伴って、ビジネス・パートナーとの協業を強化し、更に積極的に ERP や会計ソフトウェアなどのアプリケーション・パッケージ・ベンダーとの協業も推進、サービス事業者への導入も順次展開していきます。

また、NTT の固定電話網の IP 網への移行や INS ネットディジタル通信モード終了は、ファームバンキングも含めた既存の EDI に影響が予想され、インターネット EDI への移行が有効です。ZEDI 対応もこの移行に合わせて実施するのが効率的であることを訴求し、ZEDI 対応を推進していきます。

以上

■ZEDI 対応製品別リリース予定日

製品	リリース予定日
エンタープライズ・データ連携基盤「ACMS Apex」	2018 年 12 月末リリース予定
B2B インテグレーション・サーバ「ACMS B2B」	2018 年度上期リリース予定
EDI クライアント「ACMS Lite Neo」	2018 年度上期リリース予定

【株式会社データ・アプリケーション（DAL）について】

DAL は、1992 年に最初の UNIX 向けの製品をリリースして以来、EDI(電子データ交換)を中心にシステム連携分野において信頼性の高いパッケージソフトウェアを自社開発し、国産ソフトウェアベンダーとして EDI パッケージ市場でリーダーシップを確立。2007 年 4 月にジャスダックに上場しました(JASDAQ:3848)。

DAL の「ACMS(Advanced Communication Management System)シリーズ」は、国内 72 社のビジネス・パートナーを経由して販売され、すでに 2100 社 10000 サイトを越える企業のミッションクリティカルなシステムで稼働しています。ACMS シリーズは、エンタープライズ・データ連携基盤「ACMS Apex」をはじめ、基幹システムと連携した B2B 環境を容易に構築できる B2B サーバ「ACMS B2B」、企業内外のデータ連携を行う B2B インテグレーション・サーバ「ACMS E2X」など、システム規模・接続ニーズに応じた製品ラインアップを揃えています。また、システム連携では不可欠なデータのフォーマットや文字コードの変換・加工を行うデータ ハンドリング プラットフォーム「RACCOON」を 2014 年 3 月から提供しています。

【HP】 <http://www.dal.co.jp/>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/DataApplications/>

【Twitter】 https://twitter.com/dal_acms

【本件についてのお問い合わせ先】

報道関係	お客様
マーケティング本部	営業本部
Tel : 03-5640-1437	Tel : 03-5640-8544
Fax : 03-5640-8541	Fax : 03-5640-8541
E-Mail : pr@dal.co.jp	E-Mail : sales@dal.co.jp

※DAL, ACMS, AnyTran, E2X, WebFramer, RACCOON、ACMS Apex は、株式会社データ・アプリケーションの日本および海外での商標ならびに登録商標です。

※本文中に記載されている会社名、製品名等は、各社の登録商標または商標です。